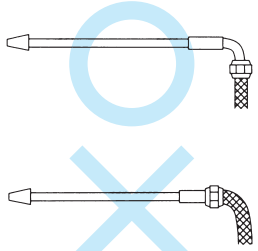
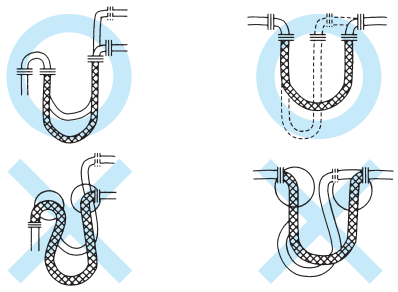
フレキシブルチューブの正しい取扱い

長持ちさせるための配管チェック

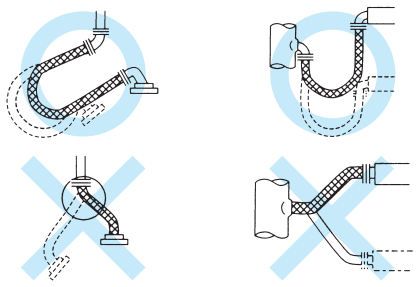
チューブはできるだけまっすぐ取付け



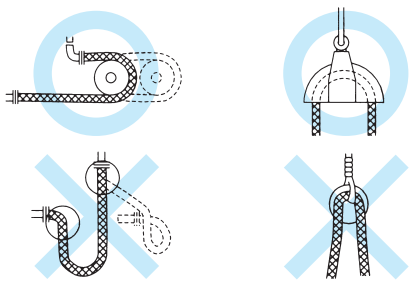
チューブの曲げ半径を確保



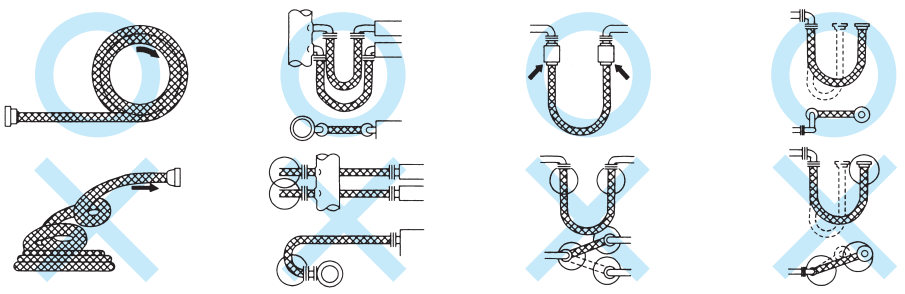
動きのある配管はU字配管が有利



曲げ配管にはガイドが有効



ねじれの加わらない配慮を（回転ジョイントの併用も有効）



使用条件に対する形式の選定と共に、チューブの性質を理解した上での取扱いが使用寿命を伸ばす“ひけつ”です。

●チューブ配管を……

ねじらない
ねじれはフレキシブルチューブで吸収できません。
- ねじ込み金具の締めつけは必ず2つのレンチで。
- 曲げは同一平面内のみが原則。

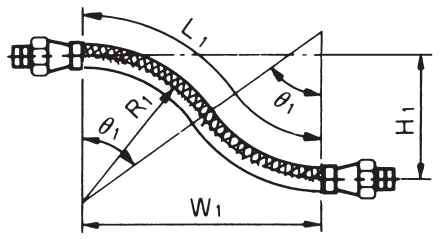
曲げすぎない
極端に小さい曲げは耐圧性を低くします。
- 曲げ半径を守ってください。

適当な長さに
ワイヤーブレード付チューブに引張り荷重が加わると耐圧性が低くなります。
- 適当な余裕をとってください。

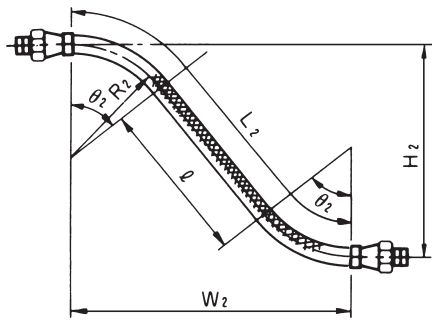
●チューブの隣接配管にはサポートを

サポートされていない振動配管は振動を増幅することがあります。

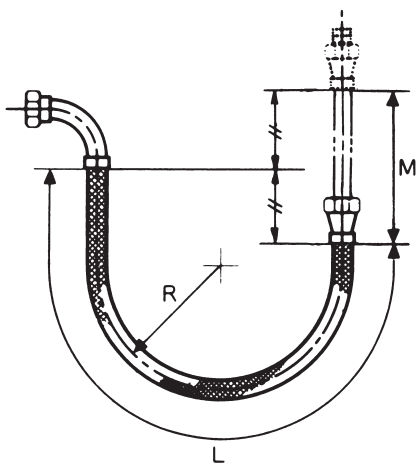
必要長さの求め方



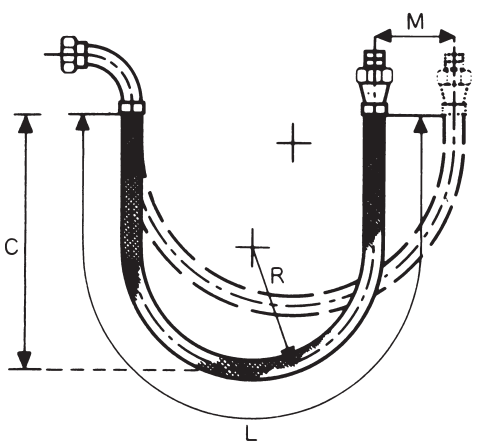
$L_1 = 2R_1\theta_1$
$W_1 = 2R_1 \mathrm{Sin}\,\theta_1$
$H_1 = 2R_1\,(1-\mathrm{Cos}\,\theta)$



$L_2 = 2R_2\theta_2 + \ell$
$W_2 = 2R_2 \mathrm{Sin}\,\theta_2 + \ell \mathrm{Cos}\,\theta$
$H_2 = 2R_2\,(1-\mathrm{Cos}\,\theta_2) + \ell \mathrm{Cos}\,\theta_2$



$L = \pi\left(R + \frac{M}{2}\right)$



$L = \pi\left(R + \frac{M}{2}\right)$

$L = \frac{L - \pi R}{2} + R$